

〈解答〉

- ① 1 ア
- 2 〔例〕 娘を天皇のきさきにして権力を強めた。〔平氏の一族が官職を独占した。〕
- 3 エ
- 4 イ
- 5 ①：管領 ②：守護
- 6 大塩平八郎
- 7 C→B→E→D (完答)

配点 ① 2, 7は各2点, 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 天智天皇の没後、672年に天智天皇の弟の大海人皇子と、天智天皇の子の大友皇子が皇位を争った内乱は壬申の乱である。この乱に勝った大海人皇子は、天武天皇として即位した。イ室町幕府第8代将軍足利義政のときに将軍のあとつぎ問題をめぐって、有力な守護大名の細川勝元と山名持豊〔宗全〕が対立すると、1467年、11年にわたる応仁の乱が始まった。東軍、西軍に分かれたこの戦乱は京都から全国に広がって、公家・将軍の権威が落ち、戦国時代となった。ウ朝廷の勢力を回復しようとしていた後鳥羽上皇は、鎌倉幕府第3代将軍源実朝が殺害される事件がおこると、1221年、幕府を倒そうと兵を挙げたが、幕府は大軍を送ってこれを破った。この戦乱を承久の乱という。この乱のあと、幕府は京都に六波羅探題を置いて朝廷を監視し、支配力を西国にまで広げた。エ保元の乱は、後白河天皇と崇徳上皇の対立に、貴族の藤原忠通とその弟の藤原頼長の争いがからんで、1156年に京都でおこった内乱である。崇徳上皇、藤原頼長が源為義らの武士を味方にして、後白河天皇、藤原忠通を攻めたが、源義朝、平清盛らの武士を味方にした後白河天皇方に敗れた。
- 2 平清盛は、1159年の平治の乱に勝って急速に地位を高めた。1167年には武士として初めて太政大臣となり、政治の実権を握った。平清盛の娘は高倉天皇のきさきになり、皇室との関係も深まった。
- 3 アテルイが坂上田村麻呂の軍に降伏したのは、平安時代初めの802年である。エ9世紀の初め、遣唐使とともに唐にわたった最澄は、日本に天台宗を伝え、比叡山

(滋賀県・京都府)に延暦寺を建てた。ア室町時代の15世紀初めに、中山の王になった尚氏は、北山、南山の勢力をほろぼして沖縄島を統一し、首里を都とする琉球王国を建てた。イ飛鳥時代の593年に推古天皇の摂政になった聖徳太子〔厩戸皇子〕は、604年に十七条の憲法を定め、天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示した。ウ710年、奈良盆地の北部に、唐の都の長安にならった平城京がつくられた。ここから80年余りを奈良時代という。

- 4 Dは1637年から1638年の島原・天草一揆である。幕府は、1639年にポルトガル船の来航を禁止し、1641年には平戸のオランダ商館を長崎の出島に移した。アは室町時代の15世紀初め、ウは鎌倉時代の13世紀末、エは南蛮貿易が活発だった室町時代から安土桃山時代にかけての16世紀末ごろの様子である。
- 5 足利尊氏は、1338年に征夷大将軍に任命されて京都に幕府を開くと、守護の権限を強め、全国の武士をまとめようとした。室町幕府で、将軍を助けて政治を行う最高の職が管領で、有力な守護大名である斯波氏、細川氏、畠山氏が交代でなった。
- 6 もと大阪町奉行所の役人で陽明学者の大塩平八郎は、奉行所の対応に不満を持ち、ききんで苦しむ人々を助けようと、1837年に乱をおこした。大塩の乱は1日で鎮められたが、全国に知れわたり、各地で「大塩門弟」を名乗る一揆がおこった。
- 7 Aは7世紀末（飛鳥時代）、Cは9世紀初め（平安時代）、Bは12世紀末（平安時代）、Eは14世紀前半（室町時代）、Dは17世紀前半（江戸時代）、Fは19世紀前半（江戸時代）である。